

川原平(1)・(4)遺跡の人面および動物意匠付土器

岡本 洋*

A list of Jomon potteries with human faces or animal designs excavated in Kawaratai(1) and (4) Site

YO OKAMOTO

キーワード：人面付土器 動物意匠付土器 共存 抽象表現 仮面付土偶

筆者は昨年、川原平(1)遺跡出土の人面付土器について資料紹介を行ったが(岡本 2017; 以下、前稿とする)、その後同遺跡の報告書がすべて刊行されたため、隣接する川原平(4)遺跡 B 区を合わせ、出土した人面付土器と動物意匠付土器の一覧を作成した。人面や動物意匠、特に抽象表現については異論もあろうが、違和感のある土器も積極的に集成し、当否は集まった時点で検討すればよいと思っている。

川原平(1)・(4)遺跡は青森県中津軽郡西目屋村大字川原平字福岡に所在する。川原平(1)遺跡では縄文時代前期から晩期の遺物が出土しているが、後期後葉から晩期にかけての遺構・遺物が多く、該期の拠点集落と考えられる。晩期後半の土坑墓群は隣接する川原平(4)遺跡 B 区で発見されているほか、東・北東の両捨場も同遺跡の範囲に連続しており、集落の範囲は二つの遺跡にまたがっている(青埋文編 2006, 2016a~c, 2017a~e)。図 1 には川原平(1)遺跡の地区区分を示しており、表 2 の出土地区に対応する。表 2 の出典には報告書の集番号を記している。遺物の時期は報告書に従った。報告書(青埋文編 2016a)で採用した時期区分は表 1 に示したが、これは青森県史(関根 2013)に準じて設定したものである。

図 2・3 は人面付土器である。図 4 は目・鼻・口がセットになっていない抽象的な人面表現のある土器である。図 5 は平面が円形の環状土器で、このような異形土器には人面が付くことがあるが、本例では確認できない。

人面と動物意匠が共存する土器は本遺跡の特徴といえる。前稿では他遺跡に類例がないと記したが、福田友之氏のご教示により青森県むつ市水木沢(1)遺跡で出土していることを知り、図 6 に示した。本資料を側方から見ると、貫通孔を目、盲孔を口とする抽象的な動物意匠となる。人面表現が瘤付土器前半期の土偶に似ることから、川原平(1)遺跡より古い段階の所産である。図 7 は川原平(1)遺跡で出土した、人面と動物意匠が共存する土器である。4 は頂部付近の写真と人面および動物意匠が分かるような図を下段に掲載した。人面は表裏に 2 面あり、目と口、顔の輪郭が沈線で、鼻が突起で表現される。動物意匠は貫通孔を目とし、土器頂部の尖った部分が鼻先、沈線が口のように見える。図 8 は動物意匠が付された土器・土偶である。人面と同じく、目・口・鼻がセットになっていない 5~9 は抽象表現と考えた。10 は整理担当の成田滋彦氏によると、額に三角形の仮面を付けた土偶とのもので、筆者も同意する。鼻の表現からは動物意匠の仮面と考えられ、土偶をヒトとみれば人面と動物意匠の共存ともいえる。額に仮面を付ける習俗の存在が窺え、祭祀の中でヒトが動物の役割を演じたり、人獣の一体化を表現する場合があったと推定される。

土器に付された動物種を推定することは難しいが、遺跡内で出土した動物骨はその手がかりを与えてくれる。本遺跡で出土した大型哺乳類の骨はツキノワグマとカモシカが多く、両者が主要な狩猟対象と推定されている(青埋文編 2017e)。動物意匠は鼻先がやや平坦で、口が大きく開くものがあるため、表現された種はツキノワグマが多いのではないかと考えている。白神山地に近い本遺跡ならではの事象として、人間とクマとの「近さ」がこのような土器を生んだ可能性がある。

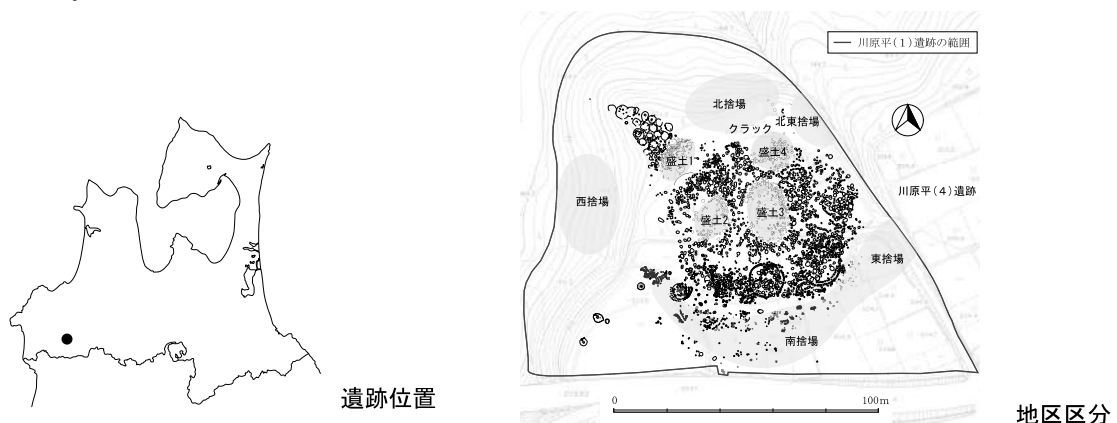


図 1 川原平(1)・(4)遺跡の位置と地区区分

* 青森県立郷土館 学芸主査

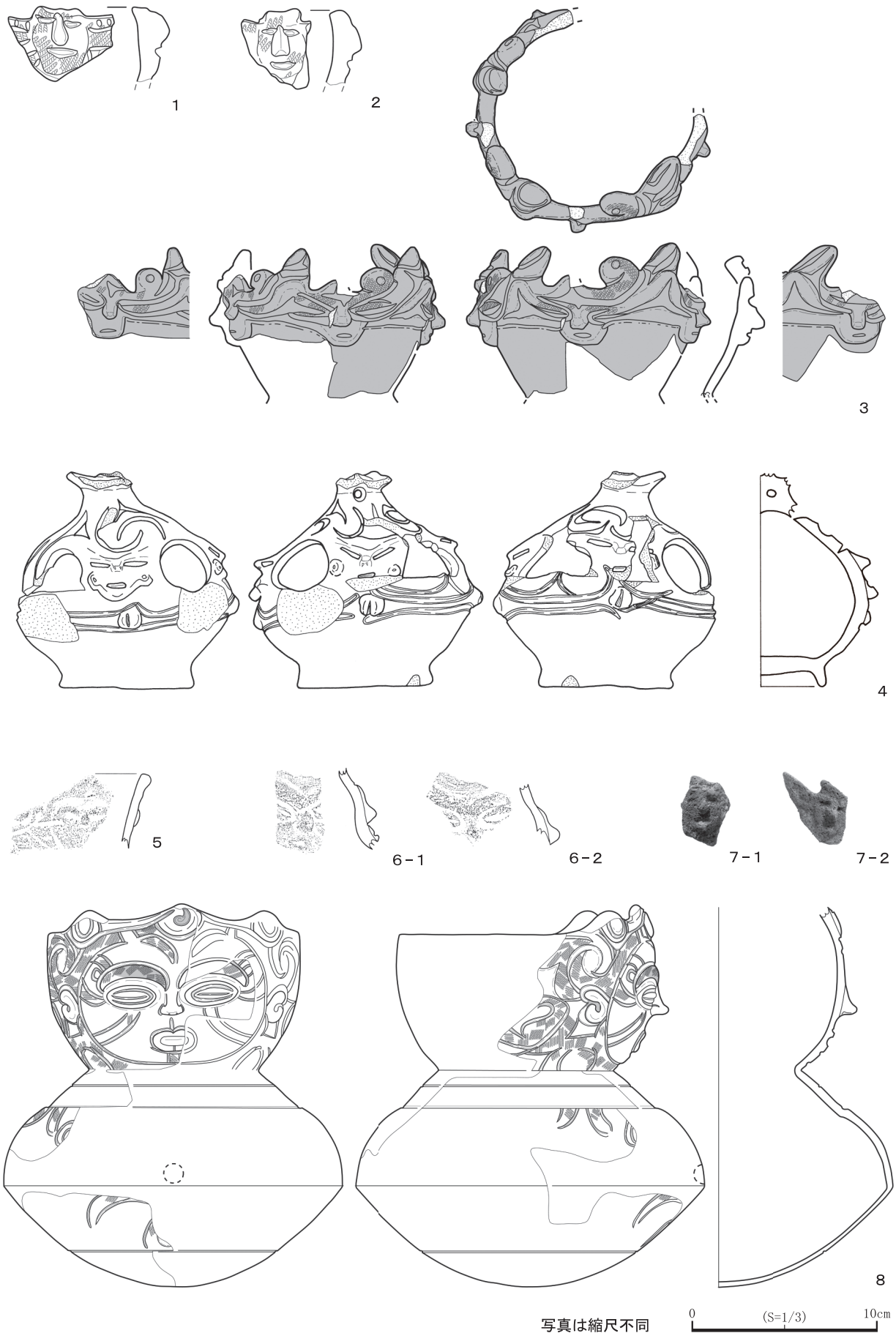


図2 人面付土器（その1）

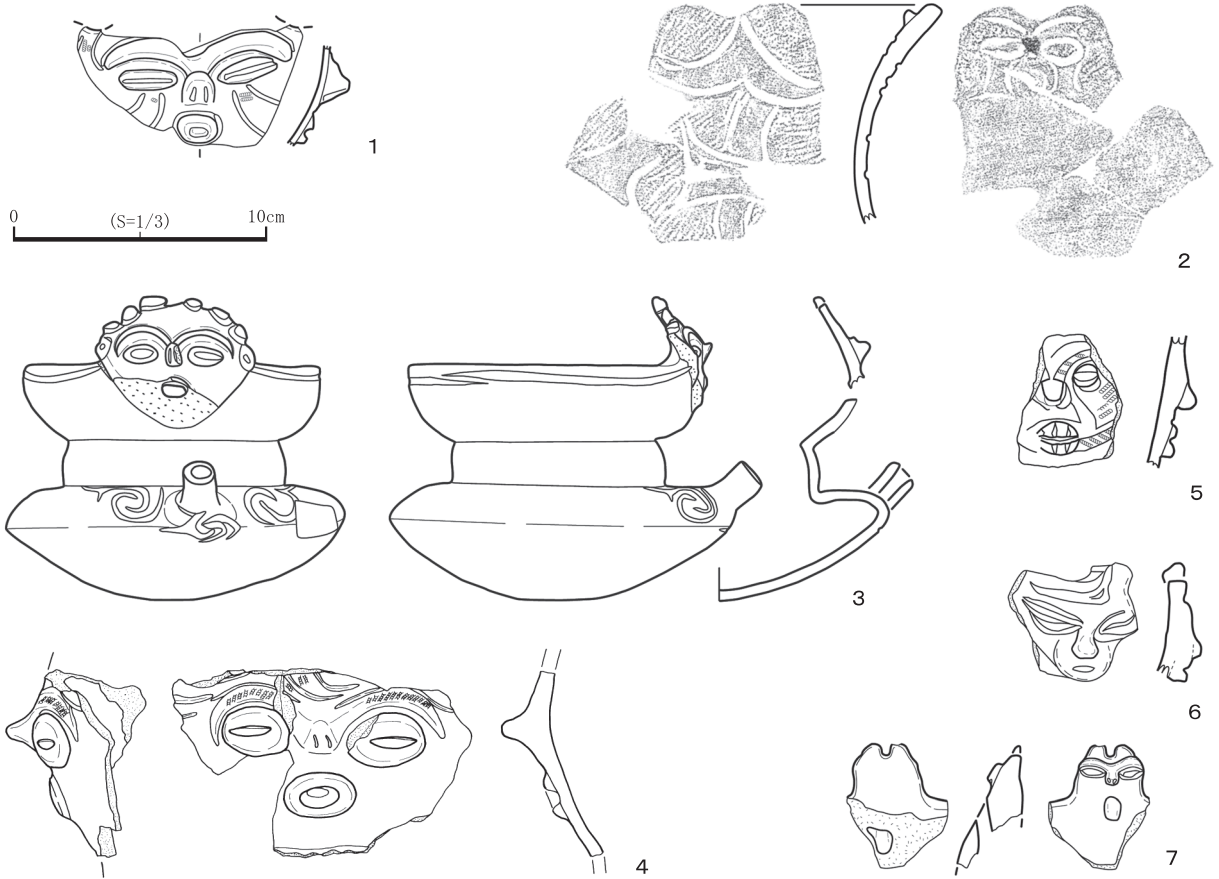


図3 人面付土器（その2）

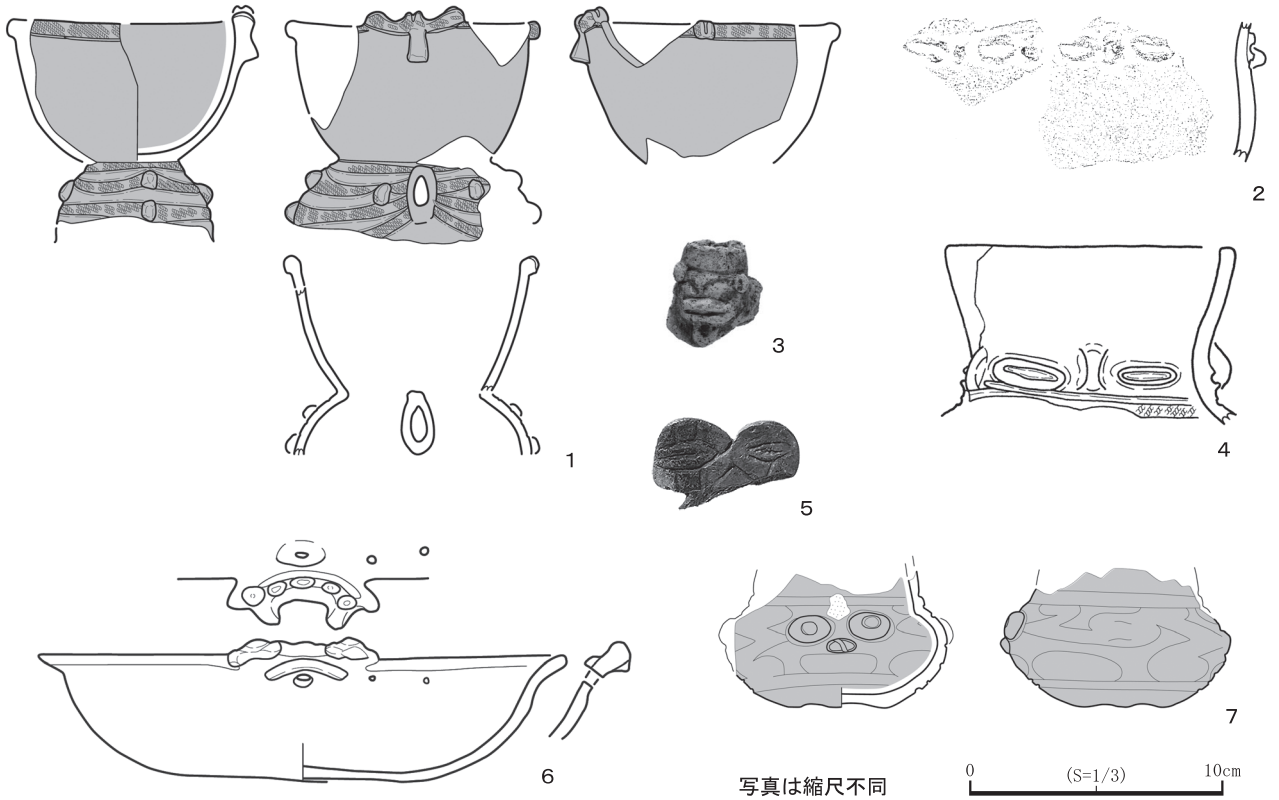


図4 抽象的な人面表現のある土器

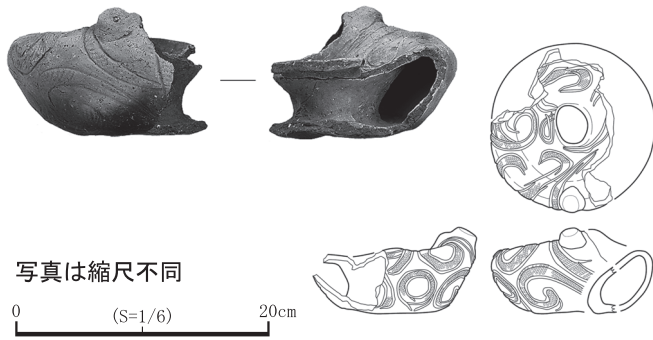


図5 環状土器

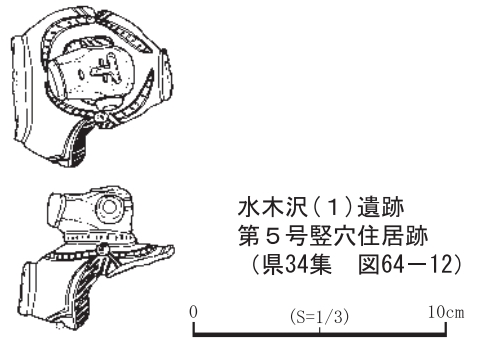


図6 人面と動物意匠の共存例

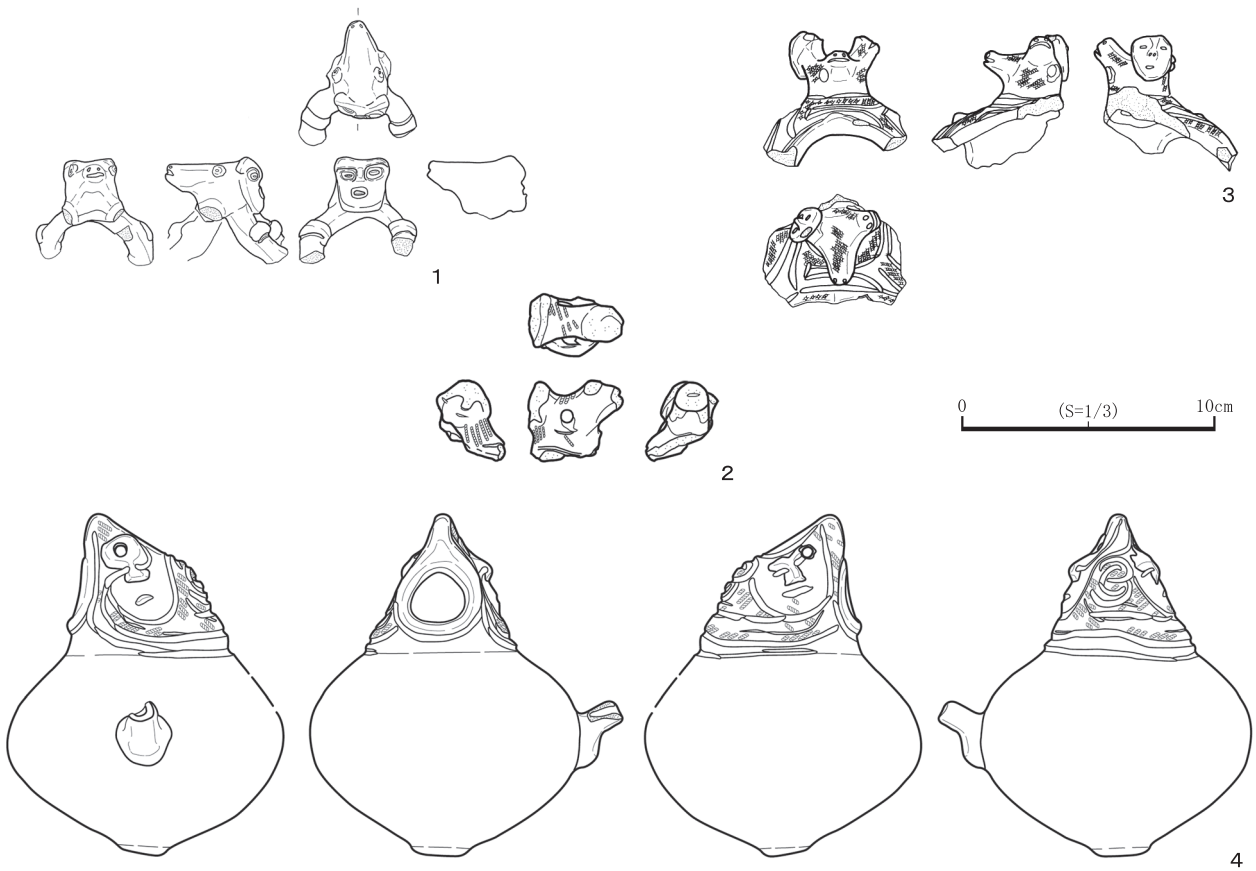


図7 人面と動物意匠が共存する土器

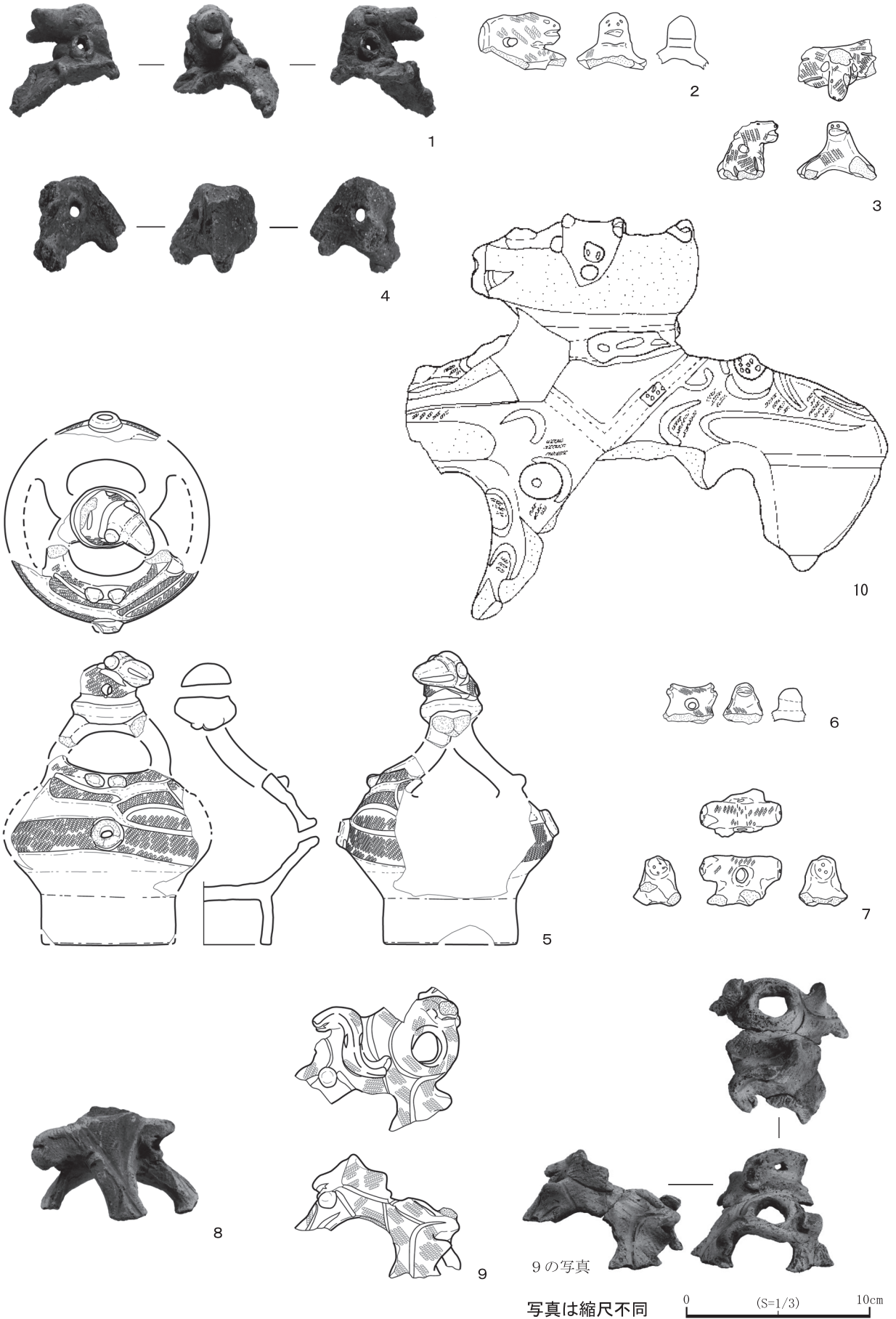


図8 動物意匠付土器・土偶

表 1 時期区分

				川原平遺跡	青森県史 (関根2013)	型式等	備考	
後期		後葉	瘤付土器			十腰内V群	本文中で7-3期以前を瘤付土器前半とした	
				7-3期	7期3段階			
		末葉		7-4期	7期4段階	(十腰内V群に欠落する時期)	瘤付土器第Ⅲ段階 (小林2008)	
				8期	8期	(十腰内VI群)	瘤付土器第Ⅳ段階 (小林2008)	
晩期	前半	初頭	亀ヶ岡式土器	1期	1a期	1a期	大洞B	大洞B1
		1b期			1b期	大洞B2		
		前葉		2期	2期	大洞BC		
	後半	中葉		3期	3期	大洞C1		
		後葉		4期	4期	大洞C2		
		末葉		5期	5期	大洞A		
				6期	6期	大洞A'		

表 2 資料一覧

図	区分	器種	時期	出土地区	出典	備考
2-1	人面	深鉢	後期 7～8	(4)遺跡	566集 図135-4	炭化物付着
2-2	人面	深鉢	後期 7～8	(4)遺跡	566集 図158-9	
2-3	人面	注口	後期 8	南捨場 北捨場 クラック	576集 写134-10	564集 図21-2に接合 赤色顔料
2-4	人面	香炉	後期 8	南捨場	564集 図21-1	内面に炭化物付着
2-5	人面	深鉢	後期 8	南捨場	564集 図117-7	炭化物付着
2-6-1・2	人面	壺または注口	後期 8か	南捨場	564集 図72-10・11	同一個体
2-7-1・2	人面	不明	後期後葉か	北捨場	578集 写102-20-1・2	同一個体 報告書には写真のみ掲載
2-8	人面	注口	晩期 1a	南捨場	564集 図28-5	赤色顔料
3-1	人面	注口	晩期 1a	クラック	576集 写128-17	
3-2	人面	深鉢	晩期 1a	クラック	576集 写147-3	内面 炭化物付着
3-3	人面	注口	晩期 1b	西捨場	579集 写82-4	
3-4	人面	注口か	晩期 1か	南捨場	409集 図10-1	
3-5	人面	壺か	晩期前葉	東捨場	577集 写35-15	
3-6	人面	香炉か	後期後葉～晩期前葉	東捨場	577集 写37-11	
3-7	人面	浅鉢か	後期後葉～晩期前葉	クラック	576集 写149-14	内面
4-1	人面(抽象)か	注口か	後期 7-4	クラック	576集 写146-9	赤色顔料
4-2	人面(抽象)	深鉢	後期 7～8	南捨場	564集 図38-11	炭化物付着
4-3	人面(抽象)	注口	後期 7～8	北捨場	578集 写87-20	報告書には写真のみ掲載
4-4	人面(抽象)	壺	晩期 1a	南捨場	564集 図94-3	
4-5	人面(抽象)か	浅鉢か	晩期 1bか	西捨場	579集 写81-7	報告書には写真のみ掲載
4-6	人面(抽象)か	皿	晩期 1b～2	西捨場	579集 写81-4	赤色顔料
4-7	人面(抽象)	壺	晩期 3	東捨場	577集 図37-90	赤色漆
5	—	環状土器	後期 8か	西捨場	579集 写111-11	人面は確認できない
7-1	人面+動物	香炉	後期 7～8	南捨場	564集 図92-11	
7-2	人面+動物	香炉	後期 7～8	東捨場	577集 写36-3	
7-3	人面+動物	香炉	後期 8か	南捨場	409集 図10-4	
7-4	人面+動物	注口	後期 8か	クラック	576集 写151-8	赤色顔料 写真は青埋文編2014より転載
8-1	動物	香炉	後期 7-4	北東捨場	577集 写129-8	報告書には写真のみ掲載
8-2	動物	香炉	後期 7～8	南捨場	564集 図64-9	
8-3	動物	香炉	後期 7～8	南捨場	409集 図10-3	
8-4	動物	香炉	後期 7～8	東捨場	577集 写23-6	報告書には写真のみ掲載
8-5	動物(抽象)	香炉	後期 7-4	南捨場	564集 図80-1	内面に炭化物付着
8-6	動物(抽象)	香炉	後期 7～8	南捨場	564集 図61-5	
8-7	動物(抽象)	香炉	後期 7～8	南捨場	564集 図33-2	
8-8	動物(抽象)	香炉	後期 7～8	北東捨場	577集 写135-1	赤色顔料 報告書には写真のみ掲載
8-9	動物(抽象)	香炉	後期後葉か	北捨場	578集 写108-9	炭化物付着
8-10	動物	土偶	晩期 2～3	西捨場	579集 図73-5	飯面(動物意匠)付土偶 土偶の目は剥落

※資料はすべて青森県埋蔵文化財調査センター蔵

文献

青森県教育委員会編 1977 『水木沢遺跡』 青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第 34 集
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2006 『川原平(1)・(4)遺跡・大川添(2)遺跡・水上遺跡』 青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第 409 集
 小林圭一 2008 「瘤付土器」『総覧縄文土器』 アム・プロモーション
 関根達人 2013 「第 1 部 2 土器の編年」『青森県史 資料編』 考古 2 縄文後期・晩期 青森県
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2014 『平成 26 年青森県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2016a 『川原平(1)遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 564 集
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2016b 『川原平(1)遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 565 集
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2016c 『川原平(4)遺跡Ⅳ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 566 集
 岡本洋 2017 「川原平(1)遺跡出土の人面付土器」『青森県考古学』 第 25 号 青森県考古学会
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2017a 『川原平(1)遺跡Ⅳ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 576 集
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2017b 『川原平(1)遺跡Ⅴ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 577 集
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2017c 『川原平(1)遺跡Ⅵ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 578 集
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2017d 『川原平(1)遺跡Ⅶ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 579 集
 青森県埋蔵文化財調査センター編 2017e 『川原平(1)遺跡Ⅷ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 580 集